

保健所・保健センター職員のデジタルスキルに関する調査
協力依頼

近年、国民の健康と安心安全な生活を守るための次世代型保健医療システムの構築に向け、ICT 活用によるデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進が議論されております。地域保健行政を担う保健所・保健センターにおいても、デジタル化・DX への取組が進められていることと存じます。地域保健活動におけるデジタル化・DX の推進を図る上では、デジタルインフラ等の設備やシステム、組織体制等の整備と共に、活動の実際を担う人材の確保や職員のデジタルスキルの向上が重要となります。そこで、地域保健行政のデジタル化および地域保健活動における DX 推進に資する具体的提案のために、保健所・保健センターの職員のデジタルスキルの現状についての調査を計画いたしました。調査の概要は下記の通りです。趣旨をご理解いただきご協力をいただきますようお願い申し上げます。

研究代表者 増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授）

【調査の概要】

1. 目的

保健所・保健センター職員のデジタルスキルの現状を明らかにし、地域保健行政のデジタル化および地域保健活動における DX 推進に資する具体的提案のための資料を作成することです。

2. 対象

全国の保健所・市町村保健センターに 3 年以内に勤務経験のある職員 400 名（人数に達した時点で調査終了）

3. 調査項目

アンケートは以下の項目からなる 54 問で構成されており、回答に要する時間は 15 分程度です。

- ・ 基本属性：勤務先の設置主体、勤務形態、年齢、性別、職種
- ・ デジタルリテラシー：経済産業省および情報処理推進機構が作成している「デジタルスキル標準」(Ver.1.2)のうち、すべての人に必要とされる「DX リテラシー標準」の項目である「マイノード・スタンス」、「DX の背景」、「DX で活用されるデータ・技術」、「データ・技術の利活用」
- ・ 職場でのデジタル化の取組進捗状況について

4. 調査回答方法

本調査は、オンライン調査会社「マクロミル」に委託し実施します。「マクロミル」の提供するオンラインアンケートサイトの調査フォームへの入力により回答をお願いします。

5. 調査期間

2025 年 2 月 21 日～2025 年 2 月 28 日（ただし、回答者が目標人数に達した時点で終了となります）

6. 倫理的配慮

- ・ 本調査は兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所の研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。（承認番号 2024F18）
- ・ 本調査は無記名調査です。本調査への協力は自由意思によるもので、調査への参加、不参加、または回答途中で回答をやめても何ら不利益を被ることありません。回答の提出をもって調査に同意いただいたものとみなします。回答提出後には、個別の回答を特定することができないため、

協力を撤回いただくことができませんのでご了承ください。

- 本調査で回収したデータは、研究者が所属する研究所内の鍵のかかるキャビネットで保管し、厳重に管理します。分析・使用したデータは、研究終了後、5年間保存した後、データ抹消ソフトを用いて、復元が不可能なように消去し処分します。
7. その他
- アンケートの回答に伴う通信費はご負担いただきますようお願いいたします。
 - 本調査は、厚生労働行政推進調査事業費の助成を受けた研究の一部として実施しています。
 - 本調査の結果は、厚生労働科学研究成果データベースに登録されると共に、厚生労働省による研究成果発表の場や関連学会学術集会にて発表、学術誌への投稿を行う予定です。
 - 本調査にかかる研究者全員の利益相反はありません。
 - 研究内容についての質問やご意見などは、直接研究班事務局に問い合わせください。

【問い合わせ／連絡先】

◎本研究班事務局（担当：藤田さやか）

〒673 - 8588 兵庫県明石市北王子町 13－71

兵庫県立大学地域ケア開発研究所内

Email : carekenpr@cnas.u-hyogo.ac.jp

TEL : 078-925-9613 FAX : 078-925-9670

<研究代表者>

増野園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授）

〒673 - 8588 兵庫県明石市北王子町 13－71

TEL : 078-925-9658（直通）078-925-9605(代表)

Email : sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp

<共同研究者>

兵庫県立大学地域ケア開発研究所

教授 林知里

教授 本田順子

研究員 朝熊裕美

研究員 藤田さやか

保健所・保健センター職員のデジタルスキルに関する調査（調査票）

質問は全部で53問あります。回答には約15分を要します。

本調査票への回答にご協力いただけますか？

☐ はい ☒ がある者のみ次へ

Q0

あなたご自身についてお尋ねします。

1. 現在、または過去3年以内に、保健所または保健センター（類似施設を含む）に勤務した経験がありますか。

選択肢リスト

- ☐ 1. 現在勤務している
- ☐ 2. 現在勤務していないが、過去3年以内に勤務していた
- ☐ 3. 過去3年以内に勤務経験がない

2. 保健所・保健センター（類似施設を含む）の設置主体をお選びください。

※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3年以内に勤務していた保健所・保健センター（類似施設を含む）の設置主体をお選びください。（複数の異なる設置主体の施設に勤務していた経験がある場合は最も勤務期間が長いものを1つ選んでください）

選択肢リスト

- ☐ 1. 都道府県
- ☐ 2. 指定都市
- ☐ 3. 中核市・その他政令市
- ☐ 4. 特別区
- ☐ 5. 市町村（指定都市、中核市・その他政令市を除く）
- ☐ 6. その他

3. 現在のご自身の雇用形態をお選びください。

※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3年以内に勤務していた保健所・保健センター（類似施設を含む）での雇用形態をお選びください。（複数の異なる設置主体の施設に勤務していた経験がある場合は最も勤務期間が長い施設での雇用形態を1つ選んでください）

選択肢リスト

- ☐ 1. 正規職員
- ☐ 2. 非正規職員（正規職員又は派遣に該当しない者）
- ☐ 3. 派遣
- ☐ 4. その他

4. 現在のご自身の職種をお選びください。

※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3年以内に勤務していた保健所・保健センター（類似施設を含む）での職種をお選びください。（複数の異なる設置主体の施設に勤務していた経験がある場合は最も勤務期間が長い施設での職種を1つ選んでください）

選択肢リスト

- ☐ 1. 保健師
- ☐ 2. 保健師以外の専門職
- ☐ 3. 事務職
- ☐ 4. その他

5. あなたの年齢をお答えください。

歳（数字を入力）

6. あなたの性別をお答えください。

選択肢リスト

- ☐ 1. 男性
- ☐ 2. 女性
- ☐ 3. その他

以下は、デジタルスキル／DXリテラシーに関する質問です。各設問では、あなたの現状に最もよくあてはまると思う選択肢を1つ選んでください。

* 現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3年以内に保健所・保健センター（類似施設を含

Q1

マインド・スタンスに関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q1S1	1.	環境や仕事・働き方の変化を受け入れ、適応するために自ら主体的に学んでいる
Q1S2	2.	自身や組織が持つ既存の価値観の尊重すべき点を認識しつつ、環境変化に応じた新たな価値観、行動様式、知識、スキルを身につけている
Q1S3	3.	価値創造のためには、様々な専門性を持った人と社内・社外問わずに協働することが重要であることを理解し、多様性を尊重している
Q1S4	4.	住民・対象者に寄り添い、住民・対象者の立場に立ってニーズや課題を発見しようとし
Q1S5	5.	住民・対象者のニーズや課題に対応するためのアイデアを、既存の概念・価値観にとらわれずに考えている
Q1S6	6.	従来の物事の進め方の理由を自ら問い、より良い進め方がないか考えている
Q1S7	7.	新しい取り組みや改善を、失敗を許容できる範囲の小さいサイクルで行い、住民・対象者のフィードバックを得て反復的に改善している
Q1S8	8.	失敗したとしてもその都度軌道修正し、学びを得ることができれば「成果」とであると認識している
Q1S9	9.	既存の価値観に基づく判断が難しい状況においても、価値創造に向けて必要であれば、臨機応変に意思決定を行っている
Q1S10	10.	勘や経験のみではなく、客観的な事実やデータに基づいて、物事を見たり、判断したりしている
Q1S11	11.	適切なデータを用いることにより、事実やデータに基づく判断が有効になることを理解し、適切なデータの inputs を意識して行っている

選択肢リスト

☐ 1.	全くそうでない
☐ 2.	どちらかといえばそうでない
☐ 3.	どちらともいえない
☐ 4.	どちらかといえばそうである
☐ 5.	非常にそうである

Q2

DXの重要性の理解に関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q2S1	1.	社会の中で人々の暮らしをよりよくし社会課題を解決するために、データやデジタル技術の活用が有用であることを知っている
Q2S2	2.	住民・対象者がデジタル技術の発展によりどのように変わってきたか（情報や製品・サービスへのアクセスの多様化、人それぞれのニーズを満たすことへの欲求の高まり）をデータ・デジタル技術の進展や社会・顧客の変化によって、既存ビジネスにおける競争力の源泉が変わったり、従来の業種や国境の垣根を超えたビジネスが広がったりしていることを知っている

選択肢リスト

☐ 1.	全く知らない
☐ 2.	どちらかといえば知らない
☐ 3.	どちらともいえない
☐ 4.	どちらかといえば知っている
☐ 5.	よく知っている

Q3

最新の情報と知識に関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q3S1	1.	「データ」には数値だけでなく、文字・画像・音声等様々な種類があることや、それらがどのように蓄積され、社会で活用されているか知っている
Q3S2	2.	業務・事業の構造、分析の目的を理解し、データを分析・利用するためのアプローチを知っている
Q3S3	3.	AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を知っている
Q3S4	4.	AIの仕組みを理解し、AIができること、できないことを知っている
Q3S5	5.	AI活用の可能性を理解し、精度を高めるためのポイントを知っている
Q3S6	6.	組織/社会でよく使われているAIの動向を知っている
Q3S7	7.	クラウドの仕組みを理解し、クラウドとオンプレミスの違いを知っている
Q3S8	8.	クラウドサービスの提供形態を知っている
Q3S9	9.	コンピュータやスマートフォンなどが動作する仕組みを知っている
Q3S10	10.	所内システムなどがどのように作られているかを知っている
Q3S11	11.	ネットワークの基礎的な仕組みを知っている
Q3S12	12.	インターネットの仕組みや代表的なインターネットサービスを知っている

選択肢リスト

- ☐ 1. 全く知らない
☐ 2. どちらかといえば知らない
☐ 3. どちらともいえない
☐ 4. どちらかといえば知っている
☐ 5. よく知っている

Q4

引き続き、最新の情報と知識に関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q4S1	1.	データの分析手法や結果の読み取り方を理解している
Q4S2	2.	データの分析結果の意味合いを見抜き、分析の目的や受け取り手に応じて、適切に説明する方法を理解している
Q4S3	3.	デジタル技術・サービスに活用しやすいデータの入力や整備の手法を理解している
Q4S4	4.	データ利用には、データ抽出・加工に関する様々な手法やデータベース等の技術が欠かせない場面があることを理解している
Q4S5	5.	期待していた結果とは異なる分析結果が出たとしても、それ自体が重要な知見となることを理解している
Q4S6	6.	分析の結果から、経営や業務に対する改善のアクションを見出し、アクションの結果どうなったかモニタリングする手法を理解している
Q4S7	7.	適切なデータを用いることで、データに基づく判断が有効となることを理解している

選択肢リスト

- ☐ 1. 全くそうでない
☐ 2. どちらかといえばそうでない
☐ 3. どちらともいえない
☐ 4. どちらかといえばそうである
☐ 5. 非常にそうである

Q5

実際の活用に関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q5S1	1.	地域保健活動におけるデータ・デジタル技術の活用事例を知っている
Q5S2	2.	プライバシー、知的財産権、著作権の示すものや、その保護のための法律、諸外国におけるデータ規制等について知っている

選択肢リスト

- ☐ 1. 全く知らない
☐ 2. どちらかといえば知らない
☐ 3. どちらともいえない
☐ 4. どちらかといえば知っている
☐ 5. よく知っている

Q6

引き続き、実際の活用に関して、以下の各項目についてお答えください。

項目リスト

Q6S1

1. データ・デジタル技術が様々な業務で利用できることを理解し、自身の業務への適用
場面を想像できる

Q6S2

2. ツールの利用方法に関する知識を持ち、日々の業務において、状況に合わせて適切
なツールを選択できる

Q6S3

3. セキュリティ技術の仕組みと個人がとるべき対策に関する知識を持ち、安心してデー
タやデジタル技術を利用できる

Q6S4

4. 個人がインターネット上で自由に情報のやり取りができる時代において求められるモラル
を持ち、インターネット上で適切にコミュニケーションできる

Q6S5

5. 捏造、改ざん、盗用などのデータ分析における禁止事項を知り、適切にデータを利用で

Q6S6

6. データ流出の危険性や影響を想像できる

Q6S7

7. 実際の業務でデータや技術を利用するときに、自身の業務が法規制や利用規約に照
らして問題ないか確認できる

選択肢リスト

- ☐ 1. 全くできない
- ☐ 2. どちらかといえばできない
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえばできる
- ☐ 5. 非常にできる

Q7

現在の職場でのデジタル化の取組進捗状況について
最後に、現在の職場でのデジタル化の取組状況についてのあなたのお考えをお尋ねし
ます。

あなたの職場はデジタル化に積極的に取り組んでいると思いますか。
※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3
年以内に保健所・保健センター（類似施設を含む）で勤務していた時のことについて

- ☐ 1. 全くそうではない
- ☐ 2. どちらかといえばそうではない
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえばそうである
- ☐ 5. 非常にそうである

Q8

あなたの職場ではデジタル化が順調に進んでいると思いますか。
※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3
年以内に保健所・保健センター（類似施設を含む）で勤務していた時のことについて
お答えください。（複数の異なる設置主体の施設に勤務していた経験がある場合は最
も勤務期間が長い施設での経験についてお答えください）

- ☐ 1. 全くそうではない
- ☐ 2. どちらかといえばそうではない
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえばそうである
- ☐ 5. 非常にそうである

Q9

前問の回答の理由をお書きください。

Q10

あなたの職場のエンタlementの取り組みに対し、あなたはこの程度満足していますか。
※現在は保健所・保健センター（類似施設を含む）に勤務していない場合、過去3
年以内に保健所・保健センター（類似施設を含む）で勤務していた時のことについて
お答えください。（複数の異なる設置主体の施設に勤務していた経験がある場合は最
近勤務期間が長い施設での経験についてお答えください）

- ☐ 1. 全く不満である
- ☐ 2. どちらかといえば不満である
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえば満足している
- ☐ 5. 非常に満足している

Q11

前問の回答の理由をお書きください。